

自彊前進

NO. 13 平成28年12月6日(火)
新潟大学教育学部附属新潟中学校 学校だより

※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと(校歌3番の文言から)

院内学級のN子

副校長 津野 庄一郎

新潟市のある病院に「院内学級」という、子どもたちが入院中、教育を受ける教室があります。かつて勤務した中学校で、私は毎週1回そこへ行き、社会科の授業を教えていました。N子と出会ったのは、その病室のベッドサイドでした。N子は白血病と闘い、献身的に尽くすお母さんや医療スタッフに支えられて治療に専念している中学生でした。放射線治療が行われると、その日は病室に入れませんので、母親が廊下で本人の様子をそっと教えてくれます。翌日、病室に横たわっているN子に、「今日もまだ辛そうだから、無理をせず、止めておくか。」と私が言うと、N子は上半身を起こして「大丈夫です。先生、勉強を教えてください！」と言います。私はそんなN子の脇で教科書を読み、ホワイトボードに要点をまとめていきます。N子は自分の膝にノートを広げ、鉛筆を握り丁寧な字で書き写します。こんなつたない授業の繰り返しでしたが、それでもN子は満足そうに「へー!」「そうなんだ!」とつぶやき、興味深そうに赤いチェックのバンダナを巻いた頭を揺らし、目をキラキラさせて一生懸命に学ぶのでした。

私が転勤してから、N子は退院し、その後生まれ育った佐渡の中学校を卒業したと聞きました。しかし、数年前の夏、元同僚からの電話でN子の訃報を知り、私は言葉を失ったのです。「病気をちゃんと治して高校に入り、もっと一杯勉強したい。」「将来は、この病院の看護師さんのような人になりたい。」そう話してくれたN子、私に学ぶということは、今この一瞬、一瞬を大事にして決して手を抜かないことだということを教えてくれたN子、想像を超える辛い治療に耐え、最後まで希望を捨てずに頑張り抜いたN子、そんなN子は私にとっての先生でした。N子はもういません。しかし、今でも私の心の中で生きています。

生徒の活躍紹介

○新潟県土砂災害防止作品コンクール(国語科)
中学生作文の部 最優秀賞

高橋まりあ(3年)

1, 2年生総合的な学習の時間の取組

11月29日、1学年の総合的な学習の時間において、様々な企業の方を講師としてお招きし、「社会の中でよりよく生きていくために必要な力」をテーマとしたパネルディスカッションを行いました。今回の学習は、2月に実施する1学年「東京班別学習」にむけた、当校の「キャリア教育」の一環の取組です。新潟をフィールドに、社会の第一線で活躍されている方々との意見交流を通して、生徒は職業観・勤労観、そして将来の自分の生き方について考えを深めました。

【1学年講演会・講師紹介】(順不同)

NECソリューションイノベータ株式会社 新潟支社長 丹野 学 様
弁護士法人ユナイテッド法律事務所 代表弁護士 中村 崇 様(当校の卒業生)
SMBC日興証券株式会社 新潟支店長 早田 芳広 様
大越農園(全国農業者青年クラブ連絡協議会会長) 大越 正章 様
北陸ガス株式会社 取締役副社長 敦井 一友 様(当校の前教育振興会会長)
社会保険労務士法人ふじた事務所 所長 藤田 英樹 様
税理士法人石田経理事務所 所長 石田 直樹 様
木山産業株式会社 代表取締役社長 木山 光 様(当校の元教育振興会会長)
三菱商事株式会社 新潟支店長 高橋 和郎 様



11月30日、2学年の総合的な学習の時間において、台湾の歴史・文化、風習・生活、諸外国とのかかわりなどに関する講演会を行いました。講師は、高口和治様(新潟市立東石山中学校長)、山崎知之様(県立西蒲高等特別支援学校)です。お二人ともに、台湾の日本人学校での勤務経験があり、日本と台湾とのかかわりなどに精通されています。3月に実施する2学年「台湾の旅」に向けて、「台湾ってどんなところ」をテーマとして、生徒の興味・関心のあることについてご講演いただきました。生徒も積極的に質問するなどして、台湾への理解を深めました。これを受けて、3月に行われる「台湾への旅」への追究が本格的にスタートします。

